

漁況予報 いわし

第164号

2011年3～4月漁期
(2011年3月16日発行)

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網における3月のマイワシ総漁獲量は、1月が51トンと好漁だった前年(107トン)は下回ったものの前年(28トン)を上回り、続く2月は13トン(速報値)と、前年(33トン)および前年(94トン)を大きく下回りました。

魚体は、1月上旬には中羽・大羽マイワシ(未測定)が入網しましたが、1月中旬以降は体長12～13cmのヒラゴ～小羽マイワシが主体となりました。これは2010年生まれの1歳魚と考えられます。

佐島地区のまき網は、1、2月とも大羽マイワシ主体の漁獲が継続しました。

一方、伊豆諸島海域のサバたもすくい網漁では、2月下旬から体長20～22cmの大羽マイワシが多く混獲されています。これは2008年生まれの子魚主体と推定され、産卵のために集群したものと考えられます。

本県沿岸における今後のマイワシの漁獲は、近年の傾向から小羽～中羽サイズの1歳魚(2010年級群)主体になると考えられます。また海況によっては沖合から2、3歳魚(2009、2008年級群)の群が、まとまって来遊する可能性もあります。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月が267トンと前年(342トン)を下回ったものの前年(141トン)を上回り、2月が200トン(速報値)と前年(311トン)を下回りほぼ前年並み(215トン)の漁獲量でした。

魚体は体長12～14cmの大型成魚が主体で、体長9～11cmの小型成魚は前年よりも割合が低い傾向にありました。

佐島地区のまき網は、マイワシに漁獲努力が一部向けられたこともあり、餌イワシとしての漁獲は低調で推移しました。

今後の漁獲は、体長12cm以上の大型成魚主体になると考えられます。

【シラス】

当センターでは毎年、しらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、シラス船びき網の禁漁期間中(1月1日～3月10日)に試験操業を実施しています。今年の調査によるシラス漁獲量は、1、2月には平均約20～30kg/網と比較的好調でしたが、解禁直前の3月には7～16kg/網とやや低調になりました。

漁獲物重量組成は各月ともマシラス(マイワシ仔魚)の割合が高く、特に1、2月は西部海域で7～9割、東部海域で4～5割と例年にない高い値を示しました。また漁獲物のサイズは、2、3月には各種シラスともカエリサイズの漁獲が目立つようになり、全長25mm以下の小型個体の割合は低い傾向にありました。

春シラス漁の漁獲主体であるカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)の来遊量は、カタクチイワシの大型成魚(体長12cm以上)の資源水準に左右されると考えられています。常磐・房総海域の大中型まき網によるカタクチイワシの漁獲状況から算出される「カタクチイワシ大型成魚資源量指数」(茨城県水産試験場算出)は、前年を大きく下回る値を示しており、今漁期のカタクチシラス漁獲量は現時点では不漁と

推定されます。

一方、マイワシの資源動向がここ数年増加傾向にあること、前述した禁漁期中の調査でもマシラスの漁獲が多かったこと等から、今漁期はマシラスの漁獲量が多くなる可能性もありますが、その量を予測することは現時点では困難です。

= 予報 =

【マイワシ】

今漁期は、2010年生まれの小羽～中羽マイワシ(体長13～16cm)が漁獲主体となり、2008、2009年生まれの大羽マイワシ(体長18cm以上)も漁獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内定置網の漁獲量から約50トンと予測されますが、沖合からの大羽マイワシの来遊により、予測値を上回る可能性もあります。

* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、大型成魚(体長12cm以上)を主体に、小型成魚(体長9～11cm)もあわせて漁獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内定置網の漁獲量から、約840トンと予測されます。

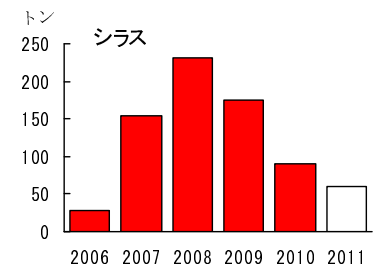
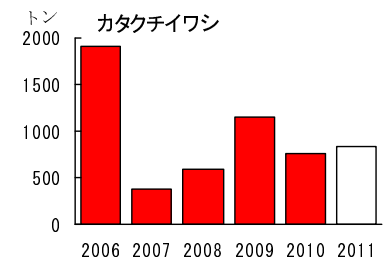
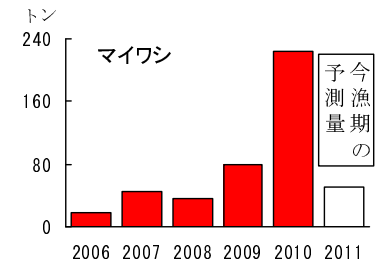
* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、2月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲主体となり、あわせてマシラスも混獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチシラスの親となるカタクチイワシ大型成魚資源量指数から約60トンと予測されますが、マシラスの来遊量が多い場合、予測値を上回る可能性もあります。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測値



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313